

《 行きたい学校 行かせたい学校 》



かなめだより

豊島区立要小学校
学校だより 1月号
令和8年1月8日



要小学校
ホームページ

努力はたし算 協力はかけ算

校長 渡部 貴美子

新しい年を迎えました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのことと存じます。日頃より、要小学校の教育活動に温かいご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、子どもたちは日々の授業や行事を通して、多くの経験を積み重ねてきました。その姿の中で、本校がさまざまな場面で大切にし、継続して取り組んできたのが「要の学び合い」です。本校では、子どもたちが一人で学ぶだけでなく、友達と考えを出し合い、支え合いながら学びを深めることを大切にしています。

学び合いの土台にあるのは、一人一人の努力です。分からぬ問題に粘り強く取り組むこと、昨日より少しでも成長しようとする気持ち、失敗してもあきらめずに挑戦する姿勢。こうした努力は、足し算のように少しずつ積み重なり、確かな力となっていきます。努力は目に見えにくいものですが、子どもたちの中に着実に蓄えられています。

しかし、学び合いの本当の価値は、そこに「協力」が加わったときに大きく広がります。自分の考えを友達に伝えること、友達の考えに耳を傾けること、困っている友達に声をかけること。こうした協力が生まれることで、努力の成果はかけ算のように大きくなります。一人では難しかった課題も、仲間と力を合わせることで乗り越えることができます。

一方で、学び合いの場において、誰かが関わろうとしなかったり、相手の考えを大切にしなかったりすると、学びは十分に広がりません。時には間違った答えを言うこともあるでしょう。しかし、間違いは決して「0」ではありません。間違いから学びが生まれます。友達の発言を笑ったり、否定したりするのではなく、「なぜそう考えたのだろう」と受け止めることができます。学び合いを支えます。また、「誰かがやってくれるだろう」と考えるのではなく、一人一人が自分なりに関わろうとすることが、学びを前に進める力になります。小さな関わりであっても、それが重なれば、大きな力となります。

「努力はたし算 協力はかけ算」。この言葉は、まさに要小の学び合いを表しています。子どもたちは、学び合いの中で「自分の努力が誰かの役に立つこと」や「友達の力が自分を支えてくれること」を実感しています。その経験が、自己肯定感や思いやりの心を育てています。

また、教育は「共育」であり、「鏡育」でもあります。学校での学び合いは、教師だけで成り立つものではありません。家庭や地域での関わり、日常の大人の姿が、子どもたちの学びを支えています。大人同士が協力し合う姿や、相手を尊重する言葉や態度は、鏡のように子どもたちに映ります。要小の学び合いは、学校・家庭・地域が共に育ち合う中で、より豊かなものになっていくと考えています。

昨年一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、学習活動や行事、見守りなど、さまざまな場面でご協力をいただきました。その一つ一つが、子どもたちの学び合いを支える大きな力となりました。改めて深く感謝申し上げます。

本年も、子どもたちが自分の歩幅で着実に前へ進み、心豊かに成長していけるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。保護者・地域の皆様におかれましては、引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。皆様にとりまして、そして子どもたちにとりまして、この一年が穏やかで実り多い一年となることを心より願っております。

1月の生活目標「礼儀正しくしよう」

生活指導部

1月の生活目標は「礼儀正しくしよう」です。礼儀とは、相手を大切に思う気持ちを、言葉や態度で表すことです。朝のあいさつ、返事の仕方、相手の話を最後まで聞く姿勢など、日々の何気ない行動の中に礼儀は表れます。新しい年の始まりは、自分の行動を振り返り、よりよい人間関係を築くよい機会です。学校では、相手の目を見てあいさつをすることや、感謝や謝罪の気持ちを言葉で伝えることを大切に指導していきます。礼儀正しい行動は、周囲の人を気持ちよくするだけでなく、自分自身の心も整えてくれます。ご家庭でも、あいさつや言葉遣いについて話題にしていただき、学校と家庭が連携しながら、思いやりのある行動を育んでいきたいと考えています。